

〔巻頭言〕

会長再任のご挨拶

のとうまさずみ
会長 桒藤眞純(43 回生)

平成 19 年 4 月に学友会会長に就任以来、卒業生である会員、各支部役員、本部役員の皆様方のご尽力を賜り 2 年間務めさせて頂きました。まずは皆様方のご支援に深く感謝申し上げます。

この度、岐阜高山で開催されました 2009 年学友会総会では全ての議案をご承認賜り厚く感謝申し上げます。同時に行われた平成 21・22 年度を任期とする会長・監事の選出では、不肖私が会長に再任され、再任の野原弘基氏(37 回生)、新任の漢那憲聖氏(42 回生)の両監事も信任されました。光栄に存じますと共に責任の重大さを再認識しています。一期目の貴重な経験を生かし、有意義な魅力ある学友会活動を目指し、母校の発展にも寄与すべく、新役員と共に努力致す所存でございます。



高山 評議委員会の1コマ

さて、私達の母校であります京都医療科学大学も開学から 3 年目を迎えました。4 年制大学化に向けての皆様のご支援、ご協力を思い起こします。その節には本当にありがとうございました。大学への転換によって高度複雑化する放射線技術、また人間育成などの教育環境も整い母校の発展を期待しています。

しかし、これからの学生の獲得競争は、大学全入時代とはいえ少子化によりますます難しくなります。資格取得により安定した就職に繋がる大学として優秀な学生が集まって欲しいと期待しています。ただ、堺市にある大阪物療専門学校が 4 年制大学として開学準備を進め文科省への申請も終えています。近畿圏に 3 校目の大学が生まれることは母校への影響も少なからず予想されます。大学に進学する者から選ばれるためには、今後も高い国家試験合格率、良い就職実績を保っていくことが重要です。

今、学内では安定した大学運営のため学科増が検討されているとお聞きしています。母校の更なる発展には選択肢もいろいろあるかと思いますが、十分検討され早期の実現を学友会としても望んでいます。

平成 19・20 年度の事業報告及び 21・22 年度の事業計画を本会誌に掲載させていただきました。皆さまのご支援により着実に実行してまいりたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

私はこの 2 年間各地で行われた支部総会に会長として出席させていただき、学生時代を思い出しながら活発に懇談し情報交換されている様子を見て同窓の絆・母校愛というものを強く感じました。そのことから学友会組織の活性の基盤は支部活動にあると考えています。支部長、支部役員の方々と一致団結し、参加しやすい支部体制により、会員相互の親睦を積極的に進め、開かれた学友会作り、新時代に相応しい学友会、またもっともっと若い方が積極的に参加してくれる学友会作りに取り組んで、更なる組織の強化、円滑な会運営に繋がりたいと思っています。中でも将来を担う尊い人材の参加を促す方策として、在学中の学生と接する機会を多く設けることも大切ではないかと思っています。母校への支援体制を強化し帰属意識の高揚、学友会に対する認識を高めるためにも様々な局面で物心両面から会員諸氏のお力添えも賜りたいと思っています。より一層の暖かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、総会の開催は隔年で交互に京都と支部との間で行われるようになりました。2009 年学友会総会も全国各地から 100 名を超える多くの会員の参加をいただき盛会裏に終えることができました。特にご夫婦連れの参加が目立ったことは、学友会も家族的になり微笑ましく喜ばしい限りです。

更には、オプションとして企画された、東大名誉教授 小柴昌俊先生のノーベル物理学賞受賞で広く世に知られるようになった宇宙素粒子観測施設「スーパーカミオカンデ」見学には多くの参加がありました。また、名古屋大学大学院理学研究科教授 丹羽公雄先生による特別講演「エックス線からニュートリノ」では基礎物理学の世界を垣間見ることができ基礎研究と応用との関係を認識させられる等、有意義な時間を持つことが出来ました。

準備に当たられた井戸支部長を始め東海支部の役員並びに高山在住の皆様には心から感謝申し上げます。

会長再任に当たり、全国で活躍されている会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

以上